対面授業

国語科教育法Ⅰ
Methodology of Teaching Japanese Ⅰ

SANO Masatoshi
佐野　正俊

科目ナンバリング：UTL-2-201-16

■授業の目的及び到達目標
国語科教育の目標、理論、歴史についての知識を身につけ、国語科教育における教材研究の方法を学び、模擬授業をすることによって、国語科の教員として必要な知識と国語科の授業の実践的な能力を身につけることを授業の目的と到達目標とする。

■授業計画
1 国語科教育の目標①
　国語科教育の目標観の変遷を概観することによって、国語科教育の歴史を理解する。
2 国語科教育の目標②
　学習指導要領（国語科）の構造を学ぶことによって、国語科教育の内容を概観する。
3 授業を構造化する①
　国語科の授業における「発問」作りの方法を学ぶことによって、国語の授業の枠組みを学ぶ。
4 授業を構造化する②
　指導言（「指示」・「発問」・「解説」）の機能とその効果的な配列の方法を学ぶ。
5 授業を構造化する③
　学習指導案の書き方を学ぶことによって、国語の授業の構造について考える。
6 模擬授業①
　評論文（序盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
7 模擬授業②
　評論文（中盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
8 模擬授業③
　評論文（終盤）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
9 模擬授業④
　小説（前半）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
10 模擬授業⑤
　小説（後半）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う
11 模擬授業⑥
　紀行文（古文）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
12 模擬授業⑦
　漢詩（漢文）の模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。
13 まとめとフィードバック
　授業内容のまとめとフィードバックを行う。国語科教育法Iにおける学びを振り返り、国語科教育についての理解を深める。

■授業の方法
半期の授業の序盤では国語科の教員に必要な知識を講義によって身につける。中盤以降は演習形式で模擬授業を行う。参加者全員で相互批評を行い、改善点を指摘し合う。相互批評に積極的に参加すること。

■予習・復習
予習：教材となっている文章の予習に取り組むこと。模擬授業のための教材研究を深めること。
復習：模擬授業での相互批評を受けて、改善すべき点を確認すること。模擬授業で指摘された改善点を踏まえて、次の模擬授業に臨むこと。
模擬授業を担当する場合は、教材研究に基づく学習指導案が完成するまでの準備（予習）の時間が必要である。その他の場合は予習・復習として、それぞれに 1 時間程度かけることを想定している。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）
平常点（発表、質疑応答、模擬授業等）100％で評価する。試験やレポート提出は行わない。

■教科書・参考書
教科書
文部科学省『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　国語編』（東洋館出版社・2018）
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説　国語編』（東洋館出版社・2019）
参考書
全国大学国語教育学会編『新たな時代の学びを創る　中学校・高等学校国語科教育研究』（東洋館出版社・2019）
町田守弘編『実践国語科教育法（第 3 版）』（学文社・2019）
山元隆春他編『あたらしい国語科教育学の基礎』（溪水社・2020）

■関連する科目
「国語科教育法II」・国際日本語学科の専門科目全般・教職課程の科目全般

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）
担当教員は高等学校国語科教諭として 19 年の実務経験を有する。